

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハピーたまフーラーザ教室			
○保護者評価実施期間	2025年7月25日 ~ 2025年8月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	2025年7月22日 ~ 2025年7月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年8月27日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援と小集団での支援をご家族のニーズやお子さまの状況に応じて提案し、一人ひとりに合わせた支援を行っている。 担当職員を固定せず複数の職員で対応することで、多角的な視点でお子さまを捉え、幅広い支援を行っている。 集団では区分2の支援枠を設けている。 様々な経験を積めるようにイベントを充実させている。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の様子に応じた年間計画を作成し、保護者さまに共有している。進度を職員間で共有するため、進行表を活用している。個別・集団ともに定期的にケース会議を実施し、様子の共有や支援方針の検討を行っている。 区分2の集団支援は、掃除や自由時間を取り入れ、流れを固定化することで、就学後の学校生活を見据えた支援内容となっている。 またお子さま一人ひとりに役割分担を持たせることで、小さな成功体験や達成感を感じやすい環境づくりを行っている。 小集団での課題を個別の支援内容に取り入れることで、効果的な療育を提供している。 外出や調理、異年齢参加など様々な内容のイベントを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休暇やイベント等で、区分3(3時間超)の支援を取り入れ、地域社会での生活に近い状況下でお子さまの成長を促していく。 保護者さまからのニーズが高いイベントや実施したことがないイベントを開催し、お子さまが様々な経験を通して成長できるよう支援していく。 職員同士での支援見学や検討会の頻度を増やし、支援の質の向上に努める。
2	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・保育園や療育センターなど、関係機関との情報共有を積極的に行っている。 他機関の情報の提供を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに関係機関連携の希望アンケートを行っている。所属する集団生活での姿を訪問の上で観察し、合理的な配慮や支援方針統一に繋げるための連携を定期的に実施している。 地域の情報を定期的に収集し、パンフレットやイベントチラシ、他事業所の空き状況を掲示している。保護者さまの要望に応じて、他事業所や習い事等の情報を積極的に提供している。 地域の習い事(スイミング・体操教室)と繋がりを持ち、ハピーのお子さまに体験していただく機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 併用事業所との事業所間連携を行い、関係機関で方針の統一を図る。 関係機関連携の必要性を、保護者さまや園にご理解いただきため、積極的に周知していく。必要があると思われれば、連携希望がない方にも連携を提案する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 個別での定期的な相談や、専門家・経験者の話を聞く機会を提供している。必要に応じてオンラインを活用している。 保護者会や親子参加日を定期開催し、保護者さま同士の交流の場を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者さま同士の交流や声掛けの仕方について学んでいただく機会として、月1回程度親子参加日を設けている。 お困りのご様子があれば職員からお声かけするなど、普段から相談しやすいような環境作りに配慮している。必要に応じて面談の機会を提供している。 就学説明やアンガーマネジメント等、動画を活用した保護者会を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援のみを利用している方に向けた保護者会の開催を検討する。 来所が難しい保護者さまに対してオンラインでの面談が可能であることを周知し、迅速な対応に努める。 保護者会でどのようなテーマの話が聞きたいか、交流の頻度はどの程度あると良いか等、保護者さまから希望を募ることで、よりニーズに合った保護者支援を提供する。 保護者支援の専門性を深めるための職員研修を受講する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 支援スペースが狭い部屋があり、十分な運動ができないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の環境要因による。 集中しやすい環境で個別支援を受けられる部屋数を確保するために、やむを得ないところ。 	<ul style="list-style-type: none"> 狭い空間でもできる運動課題について検討する。 お子さまの特性や支援内容に応じた支援室を選定する。 運動課題ではない部屋を使用するなど、状況に応じて支援室を積極的に活用する。 大きく身体を動かす活動に取り組む際には、公園や体育館へ行く外出イベントを行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> その日の職員状況によって事務室に職員がいない時があり、玄関対応や相談対応が遅れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携や研修参加等により、職員の支援スキル控除や利用者さまの福祉向上に努めている。 職員配置は利用数により設定されている。夕方以降など時間によって利用数が多い場合、支援対応優先のため事務室が不在になることもある。 事務室不在の際には、集団支援に入る職員が遠隔インターホンを持つようにしているが、対応が遅れる場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務室に残る職員を配置できるように調整に努める。 事務室に職員が不在になる時間帯を朝礼時に確認し、「職員不在のため出入り可」の張り紙を忘れずに都度玄間に貼っておく。 夕方のコマを利用する方には、事前に職員が不在になる可能性を承諾をしていただき、相談がある場合は電話やフィードバックにて予約を取っていただくように伝える。
3	<ul style="list-style-type: none"> 児発は集団枠の設定が少ない。 長時間の集団枠が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> プレ・年少の集団枠希望が少なく、集団枠を開催することが難しい。 個別ニーズが高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団枠の曜日・時間帯の見直しを行う。 集団枠が設定しやすいように、利用者さまに利用時間の変更を促す。 学年の近いお子さま(年中年少等)を小集団にすることで、小集団を複数コマ作る。